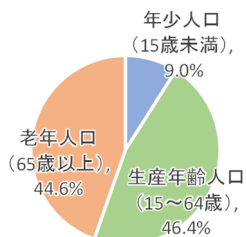


丹 土 (たんど)

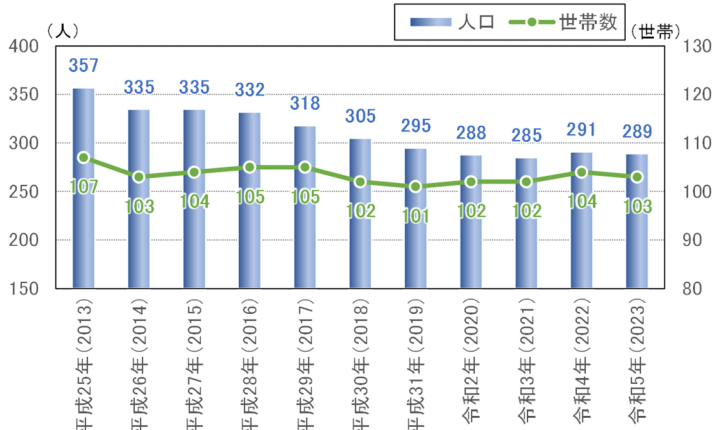
人口・世帯数等 (令和5年4月)

人 口	289 人
世 帯 数	103 世帯
高齢化率	44.6 %

年齢別人口割合



人口・世帯数の推移 (過去10年間)



区域の概要

立 地 集落は、照来盆地の中央部にあり、標高280mの高地に位置する。町内でも米の供出量の多い集落である。
地名由来 土師部連来住の地であることによるという説、穀倉地帯として重要視され、納戸と称せられており、この納戸がなまって丹土となったという説、丹土は訓読すれば赤土と読み、二酸化鉄を含んだ赤土が出て壁土用として使われていることによるという説がある。

歴 史 等 中世には東部の高尾山に城があったと伝え、また本覚寺という寺院があったという。
 近世の丹土村は、天正11年(1853)因幡国鳥取城主宮部氏領、慶長6年(1601)同国若桜藩領、元和3年(1617)幕府領、寛永4年(1627)旗本宮城氏知行、寛永20年(1643)幕府領、寛文8年(1668)からは豊岡藩領となった。天保2年(1831)の宗門改帳では、人数359。天保5年(1834)の『但馬国郷帳』(天保郷帳)の村高は373石余。照来盆地の中心地帯であり、養蚕業、稲作、但馬牛の飼育が盛んであった。

明治22年(1889)照来村の大字となり、昭和29年(1954)からは温泉町の大字となる。明治24年(1891)の戸数97、人口は男268・女262。大正11年(1922)には大地すべりを起こした。集落南方には昭和37年(1962)から照来スキー場(現在の但馬牧場公園スキー場)が開発・整備され、平成6年(1994)には兵庫県立但馬牧場公園が開園した。

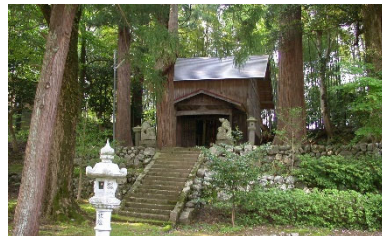
これまで把握している文化財

文化財の件数 47 件 (うち指定等文化財 1 件)

大分類	中分類	小分類	把握件数	指定等	
有形文化財	建造物	建築物	2	13	
		石造物	1		
		工作物・その他の構造物	2		
	美術工芸品	彫刻	4		
		絵画	0		
		工芸品	3		
		書跡・典籍	0		
		古文書・歴史資料・考古資料	1		
		音楽	1		
		演劇	0		
無形文化財	工芸技術	0	1		
	その他の無形文化財	0			
	信仰の場	7		20	
	有形の民俗文化財	祭具			0
		民具			0
その他の有形の民俗文化財		0			
無形の民俗文化財	年中行事・民俗芸能	4			
	民俗技術	0			
	食文化	1			
	民間説話・俗信	8			
	その他の無形の民俗文化財	0			
	散布地・集落跡・生産遺跡	1	5		
	遺跡	古墳・その他の墓		0	
城館跡・寺社跡		4			
街道・古道等		0			
戦争遺跡		0			
記念物	名勝地	その他の遺跡	0	11	
		山岳・高原・丘陵	0		
		海岸・海浜・島嶼	0		
		河川・瀧・渓谷・湖沼	0		
		公園・庭園	0		
	動物・植物・地質鉱物	その他の名勝地	0		
		動物	0		
		植物	3		
		地質鉱物	3		
		文化的景観	生活・生業・風土により形成された景観地		2
		伝統的建造物群	宿場町・城下町・農漁村等		0



丹土薬師堂の観音像



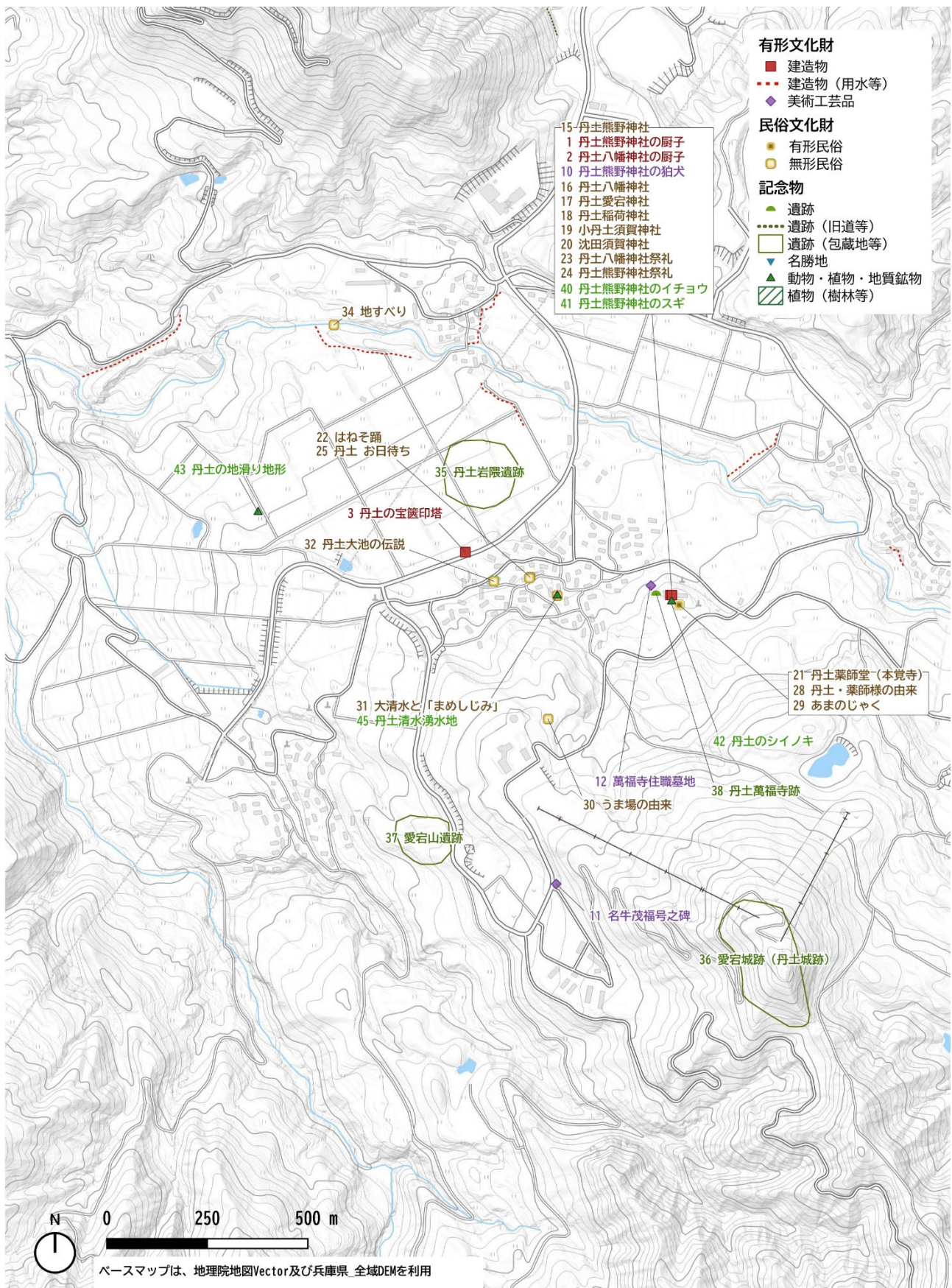
丹土熊野神社



丹土はねそ踊

※人口・世帯数は住民基本台帳(令和5年4月現在)による。

文化財の分布



※所在地の掲載可能なものに限る

5-04 丹土

文化財の一覧

■ 有形文化財／建造物

分類	番号	名称	概要
建築物	1	丹土熊野神社の厨子	概要不明
	2	丹土八幡神社の厨子	概要不明
石造物	3	丹土の宝篋印塔	相輪先端の宝珠を欠き、隅飾突起が2ヵ所破損している。個人墓地内に位置する。
工作物・ その他の 構造物	4	マセバ堰	近世初期に築造された水路。水路延長 800m、灌漑面積 2.40ha。取入口は多子字中村、排水口は照来川。
	5	大堂井手（下野下井堰）	近世に築造された水路。水路延長 5,500m、灌漑面積 6.50ha。取入口は中辻字打置、排水口は中辻川。

■ 有形文化財／美術工芸品

分類	番号	名称	概要
彫刻	6	丹土薬師堂の観音像	250×130cm の木像（観音像）。熊野神社の境内に位置する薬師堂に安置されている。鎌倉中期頃の製作と思われる。製作は地方の彫刻家の手によったものと思われ、粗豪な作法である。同一手法により全体のつり合いも見苦しくなく、面相も端麗で衣文は少し保守に傾き、いずれの意匠もないが、一見して鎌倉時代の作であることがうかがえる。傷みがひどく、外部の塗料がかなり落ちている。
	7	丹土薬師堂の薬師像(1)	230×100cm の木像（薬師像：右側）。熊野神社の境内に位置する薬師堂に安置されている。鎌倉中期頃の製作と思われる。製作は地方の彫刻家の手によったものと思われ、粗豪な作法である。同一手法により全体のつり合いも見苦しくなく、面相も端麗で衣文は少し保守に傾き、いずれの意匠もないが、一見して鎌倉時代の作であることがうかがえる。傷みがひどく、外部の塗料がかなり落ちている。
	8	丹土薬師堂の薬師像(2)	230×100cm の木像（薬師像：左側）。熊野神社の境内に位置する薬師堂に安置されている。鎌倉中期頃の製作と思われる。製作は地方の彫刻家の手によったものと思われ、粗豪な作法である。他の 2 像と少し手法を異にし、つり合いも悪く、面相も観音像としては端麗に傾き衣文その他に力がない。傷みがひどく、外部の塗料がかなり落ちている。
	9	丹土薬師堂の仁王像	270×80cm の木像（仁王像）1 対。熊野神社の境内に位置する薬師堂に安置されている。3 体の仏像（観音像と薬師像 2 体）の両脇にある。保存状態は良好であるが、紅の部分が塗り替えられた形跡がある。
工芸品	10	丹土熊野神社の狛犬	丹土熊野神社、飯野巖山大権現、中辻常盤神社の石造狛犬は、志那宋朝に行われたものの系統に属しているものと思われ、注目されるものであった。しかし、飯野のものは盗難に遭い、中辻のものは昭和 10 年（1935）の火災で焼失して、現存するのは丹土熊野神社の狛犬のみである。
	11	名牛茂福号之碑	「名牛茂福号之碑」と刻まれている。昭和 34 年（1959）に照来小学校前（桐岡）に建設された石碑で、昭和 46 年（1971）前後に公共施設建設に伴って、付近に移設された後、平成 13 年（2001）に現在地（県立牧場公園入口近く）に再移設された。茂福は、昭和 23 年（1948）に多子に生まれた熊波系の種雄牛。昭和 30 年代に「ふき蔓」が造成されることとなり、その基幹種雄牛に選ばれ、但馬牛の改良に大きく貢献した。碑文には、前田湖堂氏の撰文で、「ふく蔓牛組合」が全国和牛登録協会から承認証を受けたことを記念して建てられたことが記載されている。
	12	萬福寺住職墓地	丹土史 P95
古文書・ 歴史資料・ 考古資料	13	丹土史原稿	丹土公会堂に保管。

■ 無形文化財

分類	番号	名称	概要
音楽	14	荷方節	但馬で嫁入りや婿入りの際、荷送りをする人が、酒宴で披露する唄。めでたいずくめの歌詞で、祝い唄中の横綱格といわれている。 ※『ひょうごの祝いうた・祭りうた』（昭和51年、兵庫県企画部文化局発行）参照

■ 民俗文化財／有形の民俗文化財

分類	番号	名称	概要
信仰の場	15	丹土熊野神社	祭神は伊弉諾命、伊弉冉命。創立年月は不明。紀伊国熊野より分霊を勧請し、文禄4年(1595)本覚寺転寺の時に再造営。もとは集落から6km山奥の深山谷の堂屋敷にあったとされ、その後3km余り麓の字休み石の山上に安置したが、山崩れのため、現在の横尾山上に祀ったと伝える。境内社に八幡神社(応神天皇)、須賀神社(素戔鳴命・保食命)がある。近代社格は村社。
	16	丹土八幡神社	丹土熊野神社の境内社。熊野神社と平行して右側に社殿があり、中央の三尺四寸四方の厨子の中に祀られている。祭神は十五代応神天皇、ご神体は高さ50cm余りの木の御札である。裏には慶長8年(1608)と記されており、この年に勧請されたものと思われる。戦の神様である。
	17	丹土愛宕神社	愛宕山に一町四方の境内をもち、中腹に三尺四方の厨子に入った祠があった。月の24日は愛宕山と称し、近在近辺から赤飯をもって参詣したという。年が経るに従い信仰もすたれ、祠の管理も意の如くならず、沿道の松並木も売り払われ、大正末頃に山を下りて現在の八幡神社に合祀された。
	18	丹土稻荷神社	祭神は素戔鳴命、保食命で、七間四方の境内に三尺四寸の厨子に入った建物が丹土字上中(現在は畑)に建立されていた。それが、現在の熊野神社と八幡神社の間に移築され、三社並んでいた。如何なる理由か判然としないが取り壊されて、現在は八幡神社に合祀された。
	19	須賀神社	かつて小丹土と沈田にそれぞれあった。現在は八幡神社に合祀されている。
	20	丹土薬師堂(本覚寺)	寺院は現存しない。丹土字深山谷に堂屋敷という地名があり、かつて横尾山本覚寺(真言宗)があった。天正・文禄(1573~1596)の頃に最も栄え、末寺12余を持ったという。しかし、度々の火災で寺は衰微。梵鐘などがその名残をとどめていたが、第二次大戦で供出し、鐘楼の礎石、往時の住職の碑数基及び位牌などが残るのみとなった。一説には、往昔、高尾山に横尾山本覚寺という一寺があり、紀州の熊野三社を移して本社十二権現、本堂は弥陀薬師観音の三尊を安置した後、天正・文禄の頃に現在の横尾に移して、後に庵室を営み社座を守護していたともいわれる。境内には八幡宮があり、氏神同様に祀られている。

■ 民俗文化財／無形の民俗文化財

分類	番号	名称	概要
年中行事・民俗芸能	21	はねそ踊	戦国時代に田舎の豪氏が我が家、我が身を護るため家の子郎党に剣術を教えたものが、桃山時代に歌舞伎の曲が流行し頭(ず)を切り六方を踏むようになり、その音曲を剣術に取り入れ、父の亡き後に仏前に向かい剣術を踊って供養したのが始まりとされる。毎年盆には行事の一つとして踊られ、古くは村祭や田植休み等にも村人総出で踊りに加わったとされる。踊り手は2人、時には3人が一組となり、刀・懐剣・脇差・なぎなた等を手にし、太鼓と囃しに合わせて所作を演じる。踊り手の多い時は幾組もが円陣を作って演じる。芸題には「毛谷村六助」「鈴木主水」「白井権八」「宮城野、信夫」「国定忠次」などが伝わるが、古くはさらに「鬼神のお松」「笠松峠仇討」「夏目千太郎」その他幾十種があったといわれる。 県指定重要無形民俗文化財

5-04 丹土

分類	番号	名称	概要
年中行事・ 民俗芸能	22	丹土八幡神社祭礼	8月15日に行われる。
	23	丹土熊野神社祭礼	10月1日に行われる。(本来は9月9日)
	24	丹土 お日待ち	1月1日に丹土公会堂で行われる。
食文化	25	じゃぶ	鶏肉、糸こんにゃく、ごぼう、にんじん、玉ねぎ、豆腐などを鍋で煮た郷土料理。祭礼の際に食べる。
民間説話・ 俗信	26	力士岩石の話	※『村のおいたち 丹土史』(昭和63年、丹土区編集・発行) p101 参照
	27	丹土・薬師様の由来	※『但馬・温泉町の民話と伝説』(昭和59年、喜尚晃子編纂、手鞠文庫発行) p41 参照
	28	あまのじゃく	※『但馬・温泉町の民話と伝説』(昭和59年、喜尚晃子編纂、手鞠文庫発行) p76 参照
	29	うま場の由来	※『但馬・温泉町の民話と伝説』(昭和59年、喜尚晃子編纂、手鞠文庫発行) p161 参照
	30	大清水と「まめしじみ」	※『温泉町郷土読本』(昭和42年、温泉町教育研修所調査部編集) p191 参照 ※『村のおいたち 丹土史』(昭和63年、丹土区編集・発行) p76 参照 ※『但馬・温泉町の民話と伝説』(昭和59年、喜尚晃子編纂、手鞠文庫発行) p168 参照
	31	丹土大池の伝説	※『たじま地名考』「丹土」参照
	32	ばばおとし	字深山谷の急傾斜の所と伝わる。
	33	地すべり	※『但馬・温泉町の民話と伝説』(昭和59年、喜尚晃子編纂、手鞠文庫発行) p141 参照

■ 記念物／遺跡

分類	番号	名称	概要
散布地・ 集落跡・ 生産遺跡等	34	丹土岩隈遺跡	圃場整備で縄文～平安時代の土器が出土。消滅。
城館跡・ 寺社跡	35	愛宕城跡(丹土城跡)	丹土村の東南、通称高尾山といわれる山の頂上であり、五輪が一基残る。伝承によると平氏が隆盛だった時代に、ここに城があったという。
	36	愛宕山遺跡	中世の散布地と城館跡。牧場公園下の雑木林から柱跡の遺構を検出。
	37	丹土萬福寺跡	字横尾の庵寺屋敷と称する畑が萬福寺跡地である。天正・文禄(1573～1596)の頃、横尾山本覚寺を大深山(堂屋敷)より字横尾に移築した際、それを守護するために建てた寺である。俗に庵寺と呼ぶが、正しくは横尾山萬福寺である。小谷家に伝わる半鐘に横尾山萬福寺の文字が見られる。

■ 記念物／動物・植物・地質鉱物

分類	番号	名称	概要
植物	3816	丹土熊野神社のイチヨウ	丹土熊野神社境内のイチヨウ。環境省巨樹巨木林データベースによると、幹周3.20m、樹高35m。
	39	丹土熊野神社のスギ	丹土熊野神社境内のスギ。環境省巨樹巨木林データベースによると、幹周4.65m、樹高40mのもの、幹周3.00、樹高35mのもの、幹周3.33m、樹高35mのもの3本。
	40	丹土のシイノキ	環境省巨樹巨木林データベースによると、幹周3.50m、樹高35m。

分類	番号	名称	概要
地質鉱物	41	丹土の地滑り地形	巨大地すべり地に広がる非常に広大な棚田地域。人々の労苦をしのぼせる。地滑り地形と棚田は、兵庫県レッドリスト（地形）ではBランク（地方的価値、都道府県の価値に相当するもの）に位置付けられている。
	42	照来盆地	「照来米」「但馬牛」「照来清水」など、地質、地形、水質などの恩恵を受け、歴史、食などが豊富に存在する。
	43	丹土清水湧水地	概要不明

■ 文化的景観

分類	番号	名称	概要
生活・生業・風土により形成された景観地	44	牧場（放牧の風景）	美方地域は、冬季は積雪が多く、裏作が困難な地域であり、古くから山や盆地の斜面を利用して但馬牛の放牧が行われてきた。兵庫県立但馬牧場公園では、6月～10月の間、愛宕山へ但馬牛の昼夜放牧をしており、山頂からリフト乗車中に但馬牛の放牧風景が見られる。「兵庫美方地域の但馬牛システム」は日本農業遺産に認定されている。
	45	照来盆地の棚田	地すべり地の緩斜面を利用して拓かれた棚田。

自治会の区域における歴史文化・文化財の記録作成等の取組

・『村のおいたち 丹土史』（昭和63年10月25日、丹土区編集・発行）

